# ひめまつ

66

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ　目次　第六十六号

表紙……黒川優人　題字……石川木魚　写真……写真部・編集委員会
校歌　生活目標　裏表紙…戸松亮


グラフ［学園の四季］

随想　日本国民の道義心 未だ地に堕ちず…………校長　須賀淳……1
―全世界のメディアから称賛された東日本大震災における日本国民の行動―

論説　震災復興にむけて…………副校長　須賀英之……4
―「個人と社会」の絆―

特集1　新設部活動…………7

特集2　「下野ふるさと大賞」にて大賞受賞…………8
生活教養科　コボリ洋菓子店との共同開発「スイーツ」販売／宮染めの普及・拡大…………9
調理科　ファミリーマートとの共同開発「ハンバーガー」「サンドイッチ」販売

声 須賀学園2012 ～東日本大震災を想う……10
震災の提言　三年　七組　高橋　栄秀
東日本大震災を考える　三年二十一組　阿部　友美
家族　二年　五組　平田　香奈子
私たちにできること　一年　一組　北澤　進之助

平成二十三年度　校内読書感想文コンクール入賞者……12

心に強く響くもの…校内読書感想文コンクール入賞作品……13

【第三学年の部】校長賞
第一位　森　絵都 著「カラフル」を読んで　三年　三組　渡辺　亜理沙
第二位　梨木　香歩 著「村田エフェンディ滞土録」を読んで　三年　四組　山﨑　宥哉
第三位　坂口　安吾 著「桜の森の満開の下」を読んで　三年　五組　山本　真波

【第二学年の部】校長賞
第一位　あさのあつこ 著「グランドの空」を読んで　二年　六組　野澤　晴奈
第二位　夏川　草介 著「神様のカルテ」を読んで　二年　一組　八幡　詩織
第三位　大津　秀一 著「死ぬときに後悔すること25」を読んで　二年　五組　平田　香奈子

【第一学年の部】校長賞
第一位　岡崎　照男 著「パパラギ」を読んで　一年　一組　真野　江里那
第二位　新堂　冬樹 著「忘れ雪」を読んで　一年　八組　佐藤　聖佳
第三位　重松　清 著「その日のまえに」を読んで　一年　九組　高橋　里奈

## 各種コンクール入賞作品賞 …… 24

【税の作文】

宇都宮税務署長賞「人生に不可欠な税」　二年　一組　田村　聖花

【心の輪を広げる体験作文】

優秀賞「同じ空の下で」　一年二十三組　福田　佳弥

【税の百人一首】

租税教育推進協議会会長賞　一年　二組　武田　さおり

宇都宮税務署長賞　一年　一組　長尾　一樹

## あとらんだむ　～生徒作品集～ …… 27

【一年間の反省と二年生になる抱負】

旧・一年　三組　吉成　早紀

旧・一年　六組　野澤　晴奈

旧・一年　十三組　山本　未子

旧・一年　十五組　茂木　円香

旧・一年二十二組　中山　里紗

【二年間の反省と最上級生になる抱負】

旧・二年　三組　大島　美里

旧・二年　十三組　伴　彩奈

旧・二年　十六組　岩崎　江莉

旧・二年　二十組　神地　美里

旧・二年二十一組　上舘　友香里

旧・二年二十三組　鈴木　美紅

【社会への提言】《情報商業科三年二十組》

ゆとり教育について　黒崎　莉奈

ＴＰＰへの参加について　神地　美里

現代の教育に必要なこと　薄井　由加里

放射能の基準引き下げについて　篠崎　彩乃

本当の国際協力とは　渡辺　早貴

【短歌撰】《普通科（中高一貫コース）一年一組》

旅行記 …… 40
平和の波　二年　一組　山下　ゆかり
東大からの学び　二年　三組　床井　沙奈江
早稲田を目指すつもりで　二年　十組　塩田　春菜
沖縄で学んだ海と命　二年　十一組　倉持　彗夢
修学旅行で学んだこと　二年　十一組　山本　未子
次のステップへ　二年　十五組　小倉　明菜
皆で歩いた東京　二年　十九組　越田　祐介
食材が手に届くまでの裏側　二年　二十組　田中　雅洋
楽しかった一日旅行！　二年二十二組　小竹　彩華
活かされている蔵　一年　三組　細木　遥香
I♡鉄道　一年　十一組　松本　実華

わがホームルームの紹介 …… 46
三年・二年・一年

委員会・部活動報告 …… 71
風紀交通安全・図書・美化・茶道・華道・理科・服飾手芸・囲碁将棋・弓道・演劇・写真・ブラスバンド・合唱・硬式野球・女子サッカー・男子サッカー・卓球・水泳・女子バレー・男子バレー・硬式テニス・男子ソフトテニス・女子ソフトテニス・バドミントン・男子バスケット・女子バスケット・柔道・剣道

学園告知板 …… 83

## 附属中コーナー …… 87
この一年間のおもな活躍・クラス紹介・行事紹介・作品集 コンクール入賞作品・写真で見る中学校生活

## 宇都宮共和大学・宇都宮短期大学コーナー …… 106
宇都宮共和大学／イベント・シンポジウム・卒業生からのメッセージ・就学支援・スカラーシップ
宇都宮共和大学 子ども生活学部／宇都宮短期大学 人間福祉学科

## 教育実習生、母校の教壇に …… 122
公民科 宇都宮共和大学 吉田 雅規
公民科 立命館大学 大貫 靖典
音楽科 東京音楽大学 高鳥 舞
英語科 フェリス女学院大学 関口 成美
数学科 立教大学 大河内 英里香
地理歴史科 宇都宮大学 宇梶 早也香

## 平成二十三年度 生徒会報告 …… 128

主な大学合格者数一覧（過去三年間） 主な就職内定状況（平成二十三年度） …… 134
編集後記 編集委員長・安納 佳苗 …… 136
校史と校章

# 学園の四季

## 入学式 H23.4

▲誓いの言葉–期待に胸がふくらみます–

▲新入生と保護者の方々でにぎわう前庭

▲緊張して校長先生のお話を聞いています

## 生徒総会 H23.5

▶より良い学校を目指して–

## 合唱コンクール H23.7

▲心ひとつに～美しいハーモニーの響き

# スポーツフェスティバル H23.6

夏の気配が感じられる六月十一日、校内スポーツフェスティバルが実施されました。各会場ではクラスや個人の栄冠をかけて闘志がぶつかりあっているようです。

▲チームワークはバッチリ!! ～女子サッカーチームの仲間たち～

★第2グランド★

▲どちらがボールを奪うでしょうか？白熱する男子サッカーの試合

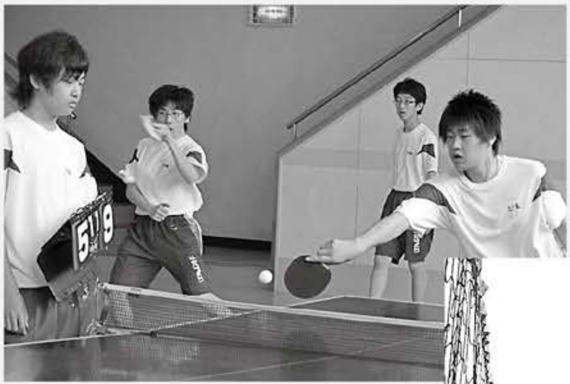
▲ソフトテニスの試合

★第3グランド★

## ★総合体育館メインアリーナ★

▲ナイスシュート!!～男子バスケットボール～

▲ねらいを定めて…女子バスケットボール



▲白球を巡って熱い戦いが!!～卓球～

## ★総合体育館サブアリーナ★

## ★第1グランド★

▲勝利に向けてアタック!!～女子バレーボール

# 大運動会 H23.10

10月10日体育の日、栃木県総合運動公園にて大運動会が盛大に行われました。当日は晴れ渡る絶好の運動会日和、この日ばかりは勉強のことを忘れて各競技とも熱い戦いが繰り広げられました。

▲いよいよ大運動会のスタート～入場行進～

▲ブラスバンドが雰囲気を盛り上げます

▲息もぴったり!?

▲1等賞はどっちに!?

▲応援にも熱が入ります

★科別対抗リレー★

▲ヤッター、1等賞!!

▲大混戦のもようです!!

▲勝利へのジャンプ!!

▲女子集団演技 ～「YELL」～のメロディーに乗せて

▲男子集団演技 エッサッサー

# 創立 111周年記念　学校祭 H23.11

## ～広げよう「笑顔と心の輪」、深めよう「友情と絆」～

　須賀学園創立111周年を記念した中学・高校合同の学校祭が創立記念日の11月3日に大勢のお客様をお迎えし、本学園教育会館と須賀栄子記念講堂大ホールにて盛大に行われました。
　各科、各クラス、各部ごとに日頃の勉強や練習の成果を披露。友情を深める1日となったようです。

▲大勢のお客様でにぎわう模擬店

▲オープニングセレモニー（ブラスバンドの演奏）

▲日ごろの学習の成果を見てください!!（生活教養科）

▲有志によるアカペラ・コンサート

◀皆さん、買ってください!!

▲たくさんのお客様が来ますように!!（食券売場）

▲笑顔でお客様をお迎えします（食堂にて）

▲皆さまから集めた品物です!!（生徒会バザー）

▲調理科による屋外での販売（フードコート）

▲楽しい思い出になりそうです!!

▲毎日一生懸命準備に励みました!!（展示会場）

# 修学旅行 in 沖縄 H23.12

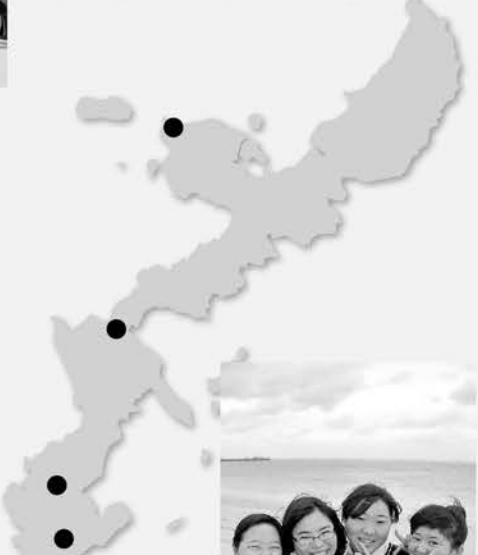
▲美ら海水族館 –大迫力のジンベイザメ–

▲ビオスの丘でハイ、ポーズ!!

▲海洋博公園

本格的な冬を前に、2年生は修学旅行として沖縄に出発。現地では、12月とは思えない温暖な気候の中で、さまざまな体験を通して、友情を深めてきました。

▲琉球村



▲南国の味に興味津々

▲世界遺産の首里城目指して

▲沖縄で食べるソフトクリームはおいしい!!

▲沖縄の海をバックに

▲ひめゆりの塔にて献花

▲ステーキハウスでの夕食

## 体験学習

▲イノー観察

▲やちむん

▲紅型

随想

# 日本国民の道義心 未だ地に堕ちず

## ――全世界のメディアから称賛された東日本大震災における日本国民の行動――

校長　須賀　淳（あつし）

平成二十三年における歴史に残る出来事は、何といっても三月十一日に起こった東日本大震災でしょう。この大震災で被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

本校においては、生徒の皆さんは第六時限の授業中でありましたが、日ごろの防火避難訓練の成果を生かして、先生方の御指導のもと整然と校庭に避難して、一人の怪我もなく、全員無事であったことは、私の大きなよろこびでした。本校の校舎の損害も軽微で、その後の授業に全く支障がなかったことは、年次計画で実施していた校舎の耐震工事がすべて完了していたおかげでした。

本校には栃木県内外の遠い所から公共の交通機関を利用して通学する生徒も多いので、交通機関の途絶により帰宅困難となった生徒が出ましたが、多数の保護者の皆様が自家用車で学校まで迎えにきてくださいました。幹線道路の交通渋滞で御苦労も多かったことと思います。保護者のお迎えが遅れているため、あるいは保護者の方と電話が繋がらないため、夜まで学校に残っている生徒の皆さんのために、先生方は非常災害時における物資支援協定を結んでいた市内のスーパーやデパートに食料品の買出しに行き、どうにか皆さんに夕食をとってもらうことができました。しかし夜が更けても帰宅困難となっている生徒もありましたので、午後九時には、あらかじめ手配しておいた貸切りバス三台により三方向に向けて各生徒の自宅まで送り届けることとしました。すべての生徒を無事に送り届けて、先生方が帰校したのは、午前三時すぎになりました。

このように、本校においては帰宅困難の生徒も当夜中に無事帰宅することができましたが、首都東京においてはほとんどの交通機関が止まったため、数百万人の帰宅困難者が出たことは予想もしなかったことでした。東北の被災地や東京の様子をテレビで見て、たいへん心が痛みましたが、諸外国のテレビも、毅然とした被災地の人々の態度や首都東京における帰宅困難者の整然とした様子を報道して、驚きとともに称賛の声をあげていました。被災地においては、他国のような暴動や略奪は全くなく、また東京では、帰宅する人々が長距離を整然と歩道を歩いており、車道にはみ出してクルマの通行を妨げる人はありませんでした。電車が止まった駅では、人々は駅の階段に、右と左の両側に分かれて列をつくって腰を下ろし、真ん中は通行ができるよう広く空けていました。駅前広場には、バスを待つ人々がきち

んと列をつくっていました。帰宅困難者が歩く沿道の商店では、水や食料を無料で提供し、トイレも貸している様子が報道されていました。これらの精神は、その後の被災地に入って活躍した自衛隊やボランティアの方々の行動に繋がるものでした。

日本は、さきの大戦で敗れ、連合国軍に占領されたとき、その占領政策によって日本の文化や伝統、国民精神が徹底して破壊されました。独立を回復した後も日本国民の良風美俗はよみがえることなく、ますます国民の精神も荒んでゆくことが嘆かれていましたが、このたびの東北大震災における被災者の皆さんの立派な態度や首都東京における数百万人の帰宅困難者の整然とした行動により、日本国民の道義心は未だ地に堕ちずと、日本国民は自信をとりもどすことができました。

平成23年3月11日　午後2時51分　全校生徒無事に校庭に避難完了

さきに戦後六十余年にしてはじめて教育基本法の改正が行われました。戦後の日本の教育に欠けていた「伝統や文化の尊重」、「国と郷土を愛する心」、「公共の精神」、「規範意識」などが復活することとなりました。この教育基本法に基づく新しい教育（学習指導要領）が、中学校では平成二十四年度から、高等学校では平成二十五年度から実施されます。しかし、その実施を待たずに、教育基本法改正の精神は日本国民に健在であったことがこのたびの東日本大震災において証明されたのです。これ以上のよろこびはありません。

論説

# 震災復興にむけて

## ―「個人と社会」の絆―

副校長　須賀英之

### 石巻市の湊中学校にて

昨年の五月中旬、東日本大震災の避難所となっている石巻市の湊中学校に向かいました。福祉や保育を学ぶ宇都宮短大と共和大の学生は、がれきの山を前に暫し呆然となりましたが、介護の相談や絵本の読み聞かせなど、一生懸命にボランティア活動に取り組みました。

「先週も校舎から遺体が発見された」と、私たちが植えた花壇の花を見て涙ぐむ主婦は、津波で夫と姉を失ったとのことです。廃校が決定した校舎には、二カ月も経つのに上下水道も電気もない状況でした。

アルバムを泥の中から探しに来ていた中学生は、遠くの体育館に移って、そこで、ようやく授業が再開されたそうです。「給食がパンと牛乳だけなので、宇都宮の餃子が食べたい」と、つとめて明るく話しかけてきてくれました。

寒い教室にシートを敷いて寝泊りする被災者には、今後、長い期間、健康や精神のケアが必要となるであろうことが、容易に想像できました。

### 発想を転換して力強い復興を

一方で、東日本大震災によって、現在の日本が抱える課題をはっきりと目に見える形で、私たちにつきつけられたように感じ

ました。財政の再建、エネルギー多消費構造からの脱却、安全安心な環境づくり、少子高齢社会の地方活性化などは、たとえ大震災が起こらなくとも、いずれその対策を迫られていた課題だからです。

震災を契機として、これまでとは発想を転換し、新しい国づくりや、産業構造や生活様式の改革が求められているのです。著名な経済学者のシュンペーターは、「創造的破壊」という言葉で、こうしたイノベーションの大切さを説いています。

湊中学校の職員室

笑顔で頑張る中学生

## 集約と分散

東日本大震災による社会の復興には、「集約と分散」の視点が重要だと思います。

津波にあった住宅は、高台に集団移転するか、沿岸部に工場や倉庫を兼ねたビルに建て替え、公共施設も近隣にまとめる必要があります。従前地の買い取りなどの政策支援が不可欠で、漁港の集約化による水産業の復旧も急務ですし、過疎化の一途をたどる地域では、市町村合併も選択肢となるでしょう。

こうした計画は国が一律に決めるのではなく、地域の実情に応じて現場で十分に検討されなくてはなりません。神戸では、港湾や道路などのインフラは震災前どおりに復旧したものの、再開発された町はコミュニティが崩壊し、結局、人口や経済活動は復活しなかったという苦い経験に学ぶところです。

## 栃木県は様々なリスク分散の受け皿に

首都圏・東海の地震に備えて、国も企業もリスク分散の施策が始まっています。電子部品や石化製品の生産ストップにより自動車から納豆にいたるまで、サプライ・チェーンが世界的に分断されました。これはまさに効率追求による集中化が裏目に出たものです。

この点で、首都圏と東北地方の中継地として、交通条件にも恵まれた本県は、復興支援を通じて存在価値が高まることでしょう。工場・研究所や観光コンベンションの誘致、医療福祉の支援、食糧・災害救援物資の備蓄など、様々なリスク分散ための受け皿として、本県には地道な取り組みが期待されています。

## 人財という誇り

復興のために、国民が整然と秩序立って行動し、これまでの自らの生活を少しずつ見直し、また、被災地のために多少の不便は我慢して協力する。こうした気運の高まりは、世界中から称賛されています。

日本は天然資源には恵まれませんが、一方、こうした親切、丁寧、協力、思いやり、共感といった優れた国民の資質、すなわち、お金では買えない「人という財産」は、長年培われた文化や教育の成果であり、私たちの誇りとするところです。

省電力への取り組みは、企業や個人にかかわらず急速に広が

り、昨夏の電力不足は幸いにも凌ぐことができました。一人あたりエネルギー消費量の大きい自家用車から公共交通機関へ、輸入食材から地産地消への志向など、震災を機に市民レベルでも発想の転換が進んでいます。家族や地域との「絆」は、昨年のキーワードとなりました。

## 個人の社会的消費

確かに車は便利なものですが、年をとったり、体が不自由になり運転ができなくなれば、郊外のショッピングセンターや総合病院に行くことはできません。時には、路線バスに乗って、中心市街地にある小規模なお店に足を運び、対面販売のやりとりを楽しみつつ、地元産の野菜や肉を買うことも大切なのです。

安いからといって、郊外の大規模スーパーで外国産の食材ばかり買っていては、オリオン通りからお店は姿を消し、中心市街地には住めなくなり、しだいに近郊農業も衰退してしまいます。バスも乗る人がいなければ、路線を廃止せざるを得なくなります。

消費とは個人が何かの便益を受けることが本来の目的ですが、これからは、こうした社会の為の消費も考えていかなくてはなりません。これを、「企業の社会的責任」と並んで、「個人の社会的消費」といいます。地域社会を持続させていくために、一人ひとりが、意識して少しずつ「小さな社会的コスト」を負担していくことが必要です。

## 地域への誇りと愛情を

インドの思想家、サティシュ・クマールは、「配慮と節度が豊かさにつながる」と述べています。震災を契機に、単なる競争原理至上主義の時代に別れを告げ、「個人と社会・地域」や「人と自然・環境」の因果関係が重視される時代を迎えたものと私は感じています。

生徒の皆さんには、あらためて伝統や風土を五感で感じ、自然や生命の大切さを学び、ひいては地域への誇りを育んでいくことを願っています。国際化の時代だからこそ、自らのアイデンティティを「ふるさと」に求めて、地域に誇りと愛情を持って、未来を切り拓いていって欲しいと思います。

避難所で一緒に「故郷」を歌った際、お年寄りが布団に正座して、「忘れがたきふるさと」の歌詞に肩を震わせている目にしたとき、そう確信しました。

石巻市公民館で「故郷」の合唱

特集 1

# 新設部活動

たくさんの生徒が所属している部活動。放課後になると、グラウンドや体育館には活気あふれる声が響き渡ります。

今年度、新たに**合唱部・硬式野球部・硬式テニス部・バドミントン部**の四つの部が仲間入りしました。

いずれも以前より要望の多かった部活動だけあり、新設であるにもかかわらず、たくさんのメンバーがそろいました。

毎日、部の発展を目指して練習に励んでいます!

みなさんも新しい部活動のメンバーの一員として、汗を流してみませんか?

合唱部：初めてのコンクールで銀賞を受賞しました!!

硬式野球部：甲子園目指します!!

硬式テニス部：技術と心、両方のレベルアップを目指します!!

バドミントン部：皆で協力し、部の発展を目指します!!

特集
2

# 「下野ふるさと大賞」にて大賞受賞

地域の特性を積極的に活用し、活性化に貢献している団体・個人を表彰する第8回下野ふるさと大賞で、本校が大賞を受賞しました。

本校では、生活教養科・調理科・情報商業科の3科で産業教育に力を入れ、コンビニエンスストアなど企業と協力した地産地消の商品開発や、伝統工芸の宮染めの普及拡大を図ってきました。**（次ページ参照）**

その結果、「農産物や伝統工芸品を念頭に置き、しっかりと続けてきたこと」が評価され、今回の受賞に至りました。

○プレゼンを担当した高山昇太君（調理科二年）のコメント

商品開発の厳しさを学び、授業へのモチベーションも高まりました。大賞に選ばれ本当にうれしいです。資金は次の開発や震災復興などの寄付に使いたいと思います。

プレゼンテーションに出席した本校生徒

# 生活教養科

## 《コボリ洋菓子店との共同開発「スイーツ」販売》

本校の生活教養科と宇都宮市内にある人気店、コボリ洋菓子店との共同企画・開発によるスイーツ、「フィナンシェ・ルージュ」が誕生しました。

丸い形のフィナンシェに、栃木県産のイチゴで作ったジャムをトッピング。地産地消にもこだわり、フィナンシェとイチゴジャムの意外な取り合わせがユニークなお菓子となりました。昨年九月からコボリ洋菓子店で販売され、大好評を得ました。

▲販売促進中

## 《宮染めの普及・拡大》

▲県庁ロビーにて商品販売

江戸時代中期から続く染め物、「宮染め」。一時は十七・十八の工場がありましたが、現在は三工場しかありません。

栃木県が誇る伝統を絶やさないため、本校では「宮染め」を現代風にアレンジした布小物の販売に取り組み、その普及に努めています。今までは県庁などに出店してきましたが、将来的には地元百貨店などでの販売も目指しています。

▲宮染めによる「手さげ袋」

# 調理科

## 《ファミリーマートとの共同開発「ハンバーガー」「サンドイッチ」販売》

**【食べて味噌カツバーガー】**

ボリューム満点の厚切りカツに宇都宮の老舗メーカー、「青源味噌」の赤味噌という絶妙な組み合わせのハンバーガー。

一個三百二十円で販売。

**【にらたま!!!】**

栃木県産ニラと卵というヘルシーで栄養満点のサンドイッチ。

一個二百九十円で販売。

「食べて味噌カツバーガー」を考案した三上櫻さん（西那須野中出身）

「にらたま!!!」を考案した濱田真生さん（鹿沼西中出身）

# 学園告知板

## 第六回県ジュニアピアノコンクール 大賞受賞！

十一月に県の文化センター大ホールにて行われた第六回栃木県ジュニアピアノコンクールにて、**本校音楽科川口真由さん（宇大附属中出身）**が見事大賞を受賞いたしました。演奏曲は、リストの「超絶技巧練習曲第十一番変ニ長調『夕べの調べ』」。この曲は、師事している仲山先生（宇短大音楽科名誉教授）に勧められたとのこと。最初は楽譜をみただけでたじろいでしまったが、実際に曲を聞いてみて弾けるようになったらいいなと考えが変わってきたそうです。平日一日五時間以上の練習を行って曲を作り上げていきました。**コンクルール当日の朝まで自分で納得する演奏が安定して弾くことができず不安でしたが、本番、ステージに立ったら『やるしかない』と思い、無我夢中で弾いた**とのことです。弾き終わった後は『やりきった！』という充実した思いがこみあげてきたそうです。今は、大変名誉な賞をいただいたことでプレッシャーを感じているようですが、『人に感動を与えられるような演奏をしていきたい。』と前向きなコメントを残してくれました。

## 第二十二回関東地区高等学校文化連盟将棋大会 準優勝！

本校から栃木県代表として**本校普通科の大塚玲奈さん（豊郷中出身）**が昨年の第二十一回大会に引き続き参加しました。一回戦シード。二回戦は昨年同大会二位の山田優花さん（千葉県立幕張総合高校二年）と、三回戦は竹内菜摘さん（埼玉県立伊那学園総合高校一年）とそれぞれ対戦、この二戦は順調な勝利でした。

準決勝は昨年一位の多々納光さん（青山学院高校二年）と対戦、逆転に次ぐ逆転を制して勝利。

決勝は東芙希さん（東京都立芦花高校一年）と対戦し、序盤は優勢で優勝は目前と思われましたが、後半三十秒将棋になってから苦戦となり、惜しくも優勝を逃しました。

しかし、**栃木県女子としては平成十二年四位入賞以来の快挙**となりました。

## 空手全国大会 初優勝！

七月末に東京体育館で行われた「カラテドリームカップ２０１１」に**本校普通科応用文理コースの伊沢代起君（横川中出身）**が出場し、高校一年男子軽量級にて見事優勝しました。五歳から始めた空手。毎日道場に通い続け、小学校五年生の時には全国大会準優勝をおさめました。それ以来優勝をめざし、さらに厳しい練習を続けました。そして、今年、念願の全国大会初優勝をおさめることができました。試合の感想については「**練習に協力してくれた方々のおかげで優勝できました。これからは一般部門での優勝も見据え、さらに練習に励みたい。**」と熱く語ってくれました。

最後に、空手の魅力について聞いてみたところ「**空手をやることで、精神的に鍛えられ、人にやさしくできる。**」と答えてくれました。

県高校総合文化祭写真展

## 特選・準特選受賞！

第三十三回県高校総合文化祭写真展において、**本校一年戸松亮さん**がA部門「現代高校生事情」で見事特選、**三年佐藤杏奈さん**が同部門で準特選を受賞しました。また、**学校賞として宇短大附属高校は準優勝を収めることができました。**

佐藤さんは昨年同写真展A部門で特選を受賞している実力派であり、高校生として最後の出展となりました。福島県喜多方の蔵屋敷で撮られた今回の写真。**「瞳の向こうに」というタイトルの通り、見た先に何があるのかを想像しながら写真を鑑賞してもらいたい**と話してくれました。卒業後も写真を撮っていきたいと笑顔で話してくれました。

戸松さんは写真部期待の一年生の一人です。本校スポーツフェスティバルのバスケットの試合中に撮られた一枚「人気のアイツ」。**激しい動きがあるバスケットの中で、静となるフリースローの瞬間に魅力を感じ、思わずシャッターを押した**とのことです。今回の受賞を聞いて**「まさか受賞するとは思わなかった。今後は、鈴木正一郎賞を受賞できるよう、さらに勉強していきたい。」**と力強く話してくれました。なお、今回、特選を受賞した戸松さんの作品は「ひめまつ」の裏表紙となっておりますので、ご覧ください。

「白い卵黄たまご新商品アイデアコンテスト」

## 調理科生徒が多数入賞！

餌に飼料米を使用し、黄身部分の色が薄い卵の生産が今年、鹿沼市で試験的に始まりました。ところが、通常の卵に比べ、消費者の反応はいまひとつ。そこで、上都賀農業振興事務所が、黄身の「白さ」が売りになる料理で需要を喚起しようと、コンテストを開きました。作品の独創性、実現性、経済性を基準として審査された結果、本校の調理科生徒が多数入賞を果たしました。

**最優秀賞（栃木県知事賞）**
**「白いシフォンケーキ」鈴木悠喜子（三年）**
**優秀賞（鹿沼市長賞）**
**「白いたまごプリン」花田茉由（二年）**
**優秀賞（鹿沼商工会議所会頭賞）**
**「白い卵DE☆オムハヤシ」上舘友香里（三年）**
**優秀賞（粟野商工会長賞）**
**「ホワイトダイヤモンドケークサレ」木村沙織（三年）**
**優秀賞（上都賀農業振興事務所長賞）**
**「白いカスタードシュークリーム」堀井美玖（二年）**
**優秀賞（上都賀農業振興事務所長賞）**
**「白いカルボナーラ」工藤真（三年）**
**優秀賞（上都賀農業振興事務所長賞）**
**「色とりどりの白玉子焼」西久保優衣（二年）**

男子ソフトテニス部

## 関東大会出場決定！

毎年、数々のみごとな成績を残し、輝いているソフトテニス部。昨年十二月に行われた関東高校選抜大会県予選の男子団体で優勝を果たし、関東高校選抜大会への出場が決定しました。

**六月　インターハイ栃木県予選会男子**
**団体・個人　優勝**
**男子四ペア、全国大会出場**
**八月　全校高校総合体育大会**
**団体ベスト十六**
**九月　栃木県新人大会**
**男子団体　準優勝**
**男子個人　優勝**
**女子団体　三位**
**十二月　関東高校選抜大会県予選**
**男子団体　優勝**

普通科応用文理コース

## 「スポーツマネジメント」新設

普通科応用文理コースの二年次選択科目に、**平成二十四年度から「スポーツマネジメント」が新設されます。**部活動と学業を両立させ、充実した高校生活が送れるように、二年次からスポーツビジネスに関係する科目を選択します。専門能力を身につけ、早稲田大学スポーツ科学部等への進学を目指します。

## 宇短大・高校OG・OB ウィンドオーケストラ 三年連続金賞

八月七日（日）に開催された第五十三回栃木県吹奏楽コンクール（主催：栃木県吹奏楽連盟・朝日新聞社）の一般部門におきまして、宇都宮短期大学・附属高等学校OG・OBウィンドオーケストラが、三年連続の金賞を受賞！

九月十八日（日）によこすか芸術劇場で開催された第十七回東関東吹奏楽コンクール（主催：東関東吹奏楽連盟）でも、銀賞を獲得しました。

## 日本語検定 成績優秀者からのひとこと

本校では、全科全コースにおいて各種検定取得に力を入れています。今回はその中でも「日本語検定」で優秀な成績を収めた三人からコメントを寄せていただきました。

**渕本　志織さん（三級合格）**

【普通科進学コース二年　正答率七十八・九％】

「時事通信社賞優秀賞」の賞状を持ち帰ったその日、家に帰った瞬間、私は家族揃っての盛大な拍手に迎えられました。嬉しいというより、まさか私がという驚きでいっぱいです。将来は史学か哲学の方面に進みたい。研究・資料収集にあっては、人と話すことも多くなると思います。検定で培った力を活かしたいです。

**蕎麥田　裕香さん（三級合格）**

【生活教養科三年　正答率八十五・四％】

将来、自分のカフェを持つことが夢です。進学先もカフェの専門学校と決めています。自分の店に来店してくださったお客様に不愉快な思いはさせたくありません。心地よい接客のために正しい日本語を使えるようにしたかったので受けました。農家の我が家には知り合いのおじいちゃんおばあちゃんが沢山来られます。「きちんと話せる子だね。」そんな誉め言葉が私のパワーになっています。

**遠藤　優さん（三級合格）**

【普通科特別選抜コース一年　正答率八十二％】

私の憧れの人は、父の知人で東京書籍で教科書を編集している方です。（女性です！）将来は教科書をつくる仕事に就きたい。一歩でも目標に近づくために資格を取りたく受検しました。最後の総合問題が奥が深いと思いました。検定の勉強を通して「ら」抜き言葉や二重敬語の誤用を知ることができました。最近読んだ本では田渕久美子著『江たちの戦国』が面白かったです。

蕎麥田 裕香さん　渕本 志織さん　遠藤　優さん

## 3.11 東日本大震災への支援活動

平成二十三年三月十一日の東日本大震災を受けて、その支援活動の輪が本校でも広まりました。まずは生徒会を通して全校生徒に募金を呼び掛け、**総額217,155円**を集めることができました。また、生活教養科では、生徒が**「花ふきん」**を縫い上げ、震災で校舎が被災したために清原中で授業をしていた清原中央小に五〇〇枚、同中学校に二〇〇枚を寄贈しました。さらに、国公立特進コースに在籍している**三年鈴木怜奈さん**（豊郷中出身）が、被災したペットを守りたいという思いから義援ステッカーを作製。動物病院など三か所で販売しました。ステッカーは一枚八〇〇円、売上金全額を日本動物愛護協会に送りました。

義援ステッカー

清原中学校を訪れた本校生徒

## 「敬老記念品」贈呈に対し、お礼のお手紙をいただきました。

日中の暑さはまだまだ厳しいですが、朝夕は少しずつ秋めいて参りました。二百十日も過ぎましたが今後大きな台風のこないことを祈っております。今回の東北の大震災により多くのことを学ぶことができました。一日も早い復興を願っております。私も無事に年を重ね敬老を迎えられましたこと感謝できる毎日でございます。お祝いにいただきましたランタンライト一粒一粒がダイヤモンドのように光り輝き「この輝きのように明かるく希望をもってお元気でお過ごし下さい」とお教えいただいたように感じられ嬉しく涙が滲みました。心温まる贈り物本当にありがとうございました。一生涯大切に備えておきます。時々はスイッチを入れて愛くるしい輝きを楽しみたいと考えております。

スポーツの秋、読書の秋です。若さ満ち溢れる生徒会の皆々様、多方面での御活躍期待致しております。そして皆様のお元気をもいただきまして、益々健康での意欲を大切にこれからも頑張って参ります。

孫も在校生になれましたこと誇りに思っております。これからもよろしく御指導下さいませ。昭和五十九年三月には娘が宇短大の音楽科を卒業しております。この頃は皆様はお生まれになっておりませんでしたが、大昔のような時代ですが多くお世話になりましたこと今では楽しくなつかしく思い出されます。

厚く御礼申し上げます。

生徒会御一同様

# ◆◆校　史　と　校　章◆◆

須賀学園は、昨年11月3日で創立111周年の記念日を迎えましたが、その前年には創立110周年を記念して式典や演奏会、学校祭、大学祭が開催され、本学園の教育実践の全容を広く内外に示すことができました。

思えば、本学園は、明治33年(1900年)に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女學校、大正13年宇都宮須賀女學校、昭和7年宇都宮女子高等職業學校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女學校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学(音楽科)を新設し、現在の宇都宮短期大学附属高等学校となりました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代現校長の須賀淳先生です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校(中・高6か年一貫教育)を併設され、宇都宮共和大学の開学、宇都宮短期大学の学科増設、須賀学園教育会館および第2グランドの新設と、ますます学園を発展させ現在に至っています。

本校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉(本誌の巻頭を参照)の意味は、本校生徒の一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるというものです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育」の精神が、100余年かわらずに脈々と生きづいています。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありましたが、現在の校章は、カタカナの「ス」の文字を3個組み合わせて図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。(合印とは、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その背に負って、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。)これは、須賀家の家系譜からデザインして第2代校長の須賀友正先生が校章と定められたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしており、いかにも清潔な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に、創立60周年記念事業の一環として制定されました。

## 高文祭写真展 特選

「人気のアイツ」 宇短附高1年 戸松亮
23.6.11 校内スポーツフェスティバルにて